

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p> <p>地域密着型サービスを理解、意識したうえで職員全体で意見を出し合い、入居者一人ひとりのニーズに合わせ、職員が日々介護従事者として向上心を持ち取り組んでいけるように作成した。</p>		
2	<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p> <p>理念をもとに、入居者の思い、ご家族の意見や希望を取り入れ、朝夕の細かな引き継ぎ、毎月のユニット会議に於いて個々のケアカンファレンスを中心に、一人ひとりに合ったケアプランを作成し、理念の実践に向けて取り組んでいる。</p>	○	報告、連絡、相談を怠らずに、入居者の担当職員を中心に、小さな変化を見逃さず情報交換、意見交換を密にし、より自立支援につながる関わりが持てるよう努力している。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p> <p>理念を玄関に掲示し、見学时、入居時、家族会などで随時伝えている。又、スタッフルーム、更衣室にも理念を掲示し、職員の意識向上にも努めている。</p>		
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p> <p>挨拶は日頃から心掛け、散歩等で出会う人達には積極的に声をかけている。野菜や漬物等のおすそ分け、また頂き、交流を重ねている。散歩の途中で立ち寄りのお寺の方からは、「中に入って休んでください」と声を掛けてもらえるようになった。</p>	○	春にホーム便りを町内会を通し発行したが継続されていないので、今後は定期的にホーム便りを発行することを心掛け、多くの人にホームのことを知ってもらえるように努めていきたい。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p> <p>町内会の活動として、総会、ゴミ拾い、花壇整備への参加。夏には子供会主催の夏祭り、秋には宮の森保育園の運動会へ入居者とともに参加させてもらった。</p>	○	ホーム便りを見て、ボランティアに…と来て下さり、その方の知人も見学に来られた。継続して定期的にホーム便りを発行し、地元の人々との交流に努めていきたい。
6	<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p> <p>入居者の夫が日中一人になり、家族の心配、不安が大きいため、週二回来所してもらい妻の食事介助の手伝い、他者と一緒に談話やレクリエーションなどを行っていた方が昨年12月に入居された。。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員全体で自己評価を行い、不足な点や課題を明確にし、改善の努力をしている。又、前回の外部評価で指摘を受けた内容についても、具体的に取り組み改善に努めた。		
8 ○運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	同日に家族会、運営推進会議を行い、報告、情報交換、意見交換、質問の場として定着し、日々のケアに役立てている。又、欠席されたご家族には、その内容を書面にて報告している。	○	ご家族の都合により(就労、高齢など)出席される方が限られてしまうが、少しでも多くのご家族にこの会議の意義を伝え、参加してもらえるよう働き掛けていきたい。
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	管理者会議に出席し連絡調整を行っている。又、札幌市より知らせのある研修会や勉強会にはできる限り参加している。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	研修会や管理者会議などで学んだ内容を、ユニット会議にて全職員へ伝え、学ぶ機会を設け、意識づけに努めている。	○	今後も研修会や勉強会に参加して学ぶ機会を増やしていきたい。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	ユニット会議で虐待について学び話し合い、職員一人ひとりが自覚と責任を持って努めている。	○	虐待に至る経緯(スタッフのモラル、ストレス)、十分な教育と指導、スタッフ間のコミュニケーション、休養などに配慮している。
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には重要事項などで説明し、十分な話し合いを心掛けている。解約の事例はなし。	○	どうしても家族の思いが中心になってしまう傾向がある。利用者を第一に家族にも理解してもらえるよう努めたい。
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	現在入居されている方々からは、直接的に意見、不満、苦情などを申し出ることがないため、日常のコミュニケーションの中からそれらをつき取る努力をし、改善に努めている。	○	努力はしているがご家族の思いが優先されてしまう傾向があるため、入居者の思いを家族へも伝えることに努めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月発行の「さとほろ便り」、家族会等を通して報告し、面会の都度近況等については詳しく伝えている。小遣いは入居者と金銭出納帳をつけ、面会時に確認してもらっている。又、状況に応じては電話連絡を行っている。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ホーム側からご家族へ尋ねることを心掛け、都度受け入れている。又、毎月の家族会、運営推進会議にて、そのような場を設け改善に努めている。	○	入居者の思いを、ご家族に伝えることも心掛けている。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	全体会議にて、ユニット責任者を通し、又は直接聞く機会がある。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	出来るだけそのような対応が出来るよう努力している。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	各ユニットを職員、入居者が自由に行き来することで、どちらとも馴染みの関係でいられるよう心掛けている。又、互いのユニットでの勤務の機会も設けている。職員への待遇など十分に努力し、離職は必要最小限に抑えられていると思う。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	採用時の研修と経過を見ながらのフォローアップ研修、又、ユニット会議でも勉強会を行っている。法人外の研修についても希望者はもちろん、必要と思われる研修には参加を義務づけている。研修後はレポートを提出し、ユニット会議にて報告し内容を共有している。	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	同地区のGH協議会に所属し、勉強会や研修会に参加。その他さまざまな研修にも出来る限り参加してもらい、研修後の報告等を通し、日々のケアに役立てれるよう努力している。	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	勤務表を作成する上で、心身ともに十分に休める内容を心掛けている。職員の人員に余裕があるよう努めている。	○ ユニット会議の後の食事会や歓送迎会、忘年会など職員間の交流の場を設ける努力をしている。
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	ユニット責任者からの報告、実際に現場での把握が行われている。	○ 各職員の努力は給与などで反映している。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	十分に話し合う場を設ける努力はするも、ご家族の意向が中心となってしまうことが少なくない。入居後、日常のコミュニケーションの中から本人の思いをくみ取る努力と、尋ねる努力に努めている。	○ 本人の心の声を聴くことを心掛け、家族へもそれを伝え共に関われる環境作りに努めている。
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	電話での問い合わせ時、見学時、契約時にできる限り、安心してもらえるよう十分に話しを聴く機会を作ることに努めている。	

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	いろいろなサービスを利用の後、ホームへの入居を希望されてくるケースがほとんどのため、そのような機会はないも、入居後に状況が変わった場合は都度話し合うことを心掛けている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	妻が入居し、日中一人になり、混乱やせん妄により認知症が進み、家族の心配、不安が大きく、週2回来所してもらい妻の食事介護の手伝い、他者との関わりを持つ中で自然に入居・・というケースがあった。	○	ご家族と十分に相談、話し合い、いろいろ試みた結果、自然な形で入居できたケースだと思う。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	一人ひとりに合わせた関わりを心掛けながら、自立支援の姿勢を忘れずに、出来ること、得意分野を見い出しながら一緒に行うことで喜びや楽しさを共有している。又、共に昔を振り返り、個人の過去に振れることで昔ながらの文化を学ぶことがある。	○	先に歩み、多くのものを築いてこられた人生の先輩として、常に敬う気持ちを忘れないことを心掛けている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ケアプラン作成時には、ご家族に相談、協力を得ている。誕生会には参加の呼びかけ、一緒に祝い、その他外出行事やレクリエーション等にも声掛けをし共に喜び楽しんでもらえるよう努めている。	○	家族との関わりをととても大切にし、気軽に来所してもらえる雰囲気作りに努めている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	細めに家族と連絡をとり、行事等への参加の声掛け、良い関係を築き続けられるよう配慮している。	○	機会があるごとに、家族と話す場を設け本人をよく知る、理解する努力をしている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族の面会は頻回にあり、行事などにも参加の声掛けを行っている。ご家族との外出、温泉への一泊旅行、自宅への外出・外泊も行われている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	普段から全員でできる体操やゲーム等を工夫し、行事には全員参加に努め、不穏な状態の利用者には本人に合わせた配慮をし、誤解が生じた場合は職員が間に入り説明し、理解していただけるよう努力している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退所した家族からウェス用にと布を送って頂くことがあり、責任者が代表で連絡をとっている。他所へ移った人のもとへ責任者や管理者が様子を見に行ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	自分の思いや希望、意志などをうまく表現でない方が多いので、日々の様子や表情から、それらを組み取り、ご家族、職員と相談しながら、できるだけ本人の思いに添えるよう努力している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	可能な限りの情報提供、収集に努め、ご家族との面談、日常のコミュニケーションから、それらを組み取る努力をしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日勤帯、夜間帯一日を通し、ひとりひとりのケアプランに添った記録を取り、細かなことや言動、状況など一人ひとりの心身の状態を把握するように努めている。	○	細かな引き継ぎと報告、連絡、相談を徹底している。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人(可能な方)、ご家族と相談しながら、入居者の担当を中心に、毎月のユニット会議で全職員で話し合い、介護支援専門員の監理のもと、介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	状況の変化に伴い、常に見直しを行うとともに、3ヶ月ごとに介護計画の見直しを行っている。介護支援専門員の適切な監理のもとに、ご家族と相談し他職員の意見も参考に現状にあった計画を作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケアプランの評価や日々の記録、その時々への気づき等、個人申し送り、介護日誌を通し、全職員が情報や一人一人の状況を共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々への要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	医療連携体制を整え、週1回訪問看護師による健康管理、相談、指導、隔週の医師による往診を受けている。又、随時必要に応じて相談、往診を受けることができる。※皮膚科、歯科、眼科も同様。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ボランティアさんの協力により、体力作りや様々な作業を共に行うことで支援を受けている。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	現在は該当者なく事例なし。	○	今後、入居者の意向や必要性に応じ、取り組んでいきたいと思う。
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	現在は事例なし。	○	同上
43 ○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	一週間に一度、訪問看護を受けている。都度、不安な事など相談できる。又、かかりつけ医師がおり24H往診可の体制をとっている。※皮膚科、歯科、眼科も同様。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	協力医療機関(慈啓会病院)との提携により、定期受診の実施、必要に応じての受診を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	毎週、訪問看護師による健康管理、相談、指導を受けている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	昨年の外部評価～現在に至るまで入院された入居者なし。過去に於いては出来るだけ面会に行き、病院関係者から報告を受け情報交換を行っていた。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	終末期のケアの希望が救急搬送、延命について、ご家族と3ヶ月に一度は話し合い、ご家族と職員間にズレが生じないようにしている。又、緊急時のご家族の意向を一覧にし、職員間で方針を共有している。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	定期的にご家族に意志確認をし、希望され続けるかぎり終末期に向けた話し合いの場を設け、その内容を医師に提示し、今後について決めている体制をとっている。	○	ご家族の思いは状況に応じて変化が見られる。都度、状況を共有し話し合いの場を設けていくことを心掛けている。
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	自宅から馴染みの家具等を持ち込んだり、ホームでの生活に慣れるまでご家族に来訪して頂いている。他施設へ移り住む際には、添書を作成している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	入居時に個人情報保護に関する説明を行い「個人情報同意書」を得ている。常に入居者の立場に立ち、一人一人が注意するだけでなく、職員同士で声を掛け合う等し、プライバシーの確保に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	自ら言葉に出して表現することの難しい方が多い為、日常のコミュニケーションの中で、時には非言語的コミュニケーションを交えて、一人ひとりの思いや願いを組み取れるよう努めている。	○	相手をよく知る努力を常に重ねている。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者の重度化が著しい現状に於いて、一人ひとりのペースに合わせた関わりを心掛けてはいるが、3対1の人員では難しい面も少なくない。出来る限り本人の希望に添ったサービスを提供できるよう、十分な職員数での対応に努めている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	男性も訪問美容を受けていたが、近所の理容店へ行き、髭剃りやシャンプーを行っている。	○	希望により近所の理髪店を定期的に利用している。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	その人の力量に合わせ、作業を分担したり誕生日には本人の好きなものを取り入れたり、毎日の食事にも入居者の希望を重視している。見た目にも楽しいメニューを心掛け、又、食事中も会話等で楽しめる様心掛けている。	○	一人ひとりの好みの把握や願いに答えられるよう努めている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	必ず、おやつ時間を作り、少量ではあるが楽しめるようにしている。※現在、喫煙者はなし。		散歩の際にはおやつとジュースを持って出掛け楽しむ。ミスドに行っておやつとコーヒーを頂く。スーパーで好みのおやつと一緒に買う...など行っている。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	できるだけ失敗による不快感を少なくするよう、トイレでの排泄を促し、声掛けを工夫したり状況をみながらトイレ誘導を行っている。日中においては、殆どの方が布パンツ使用している。	○	一人ひとりの排泄パターンをよく知り、小さなサインを見逃さないよう努力している。 全員のトイレでの排泄を誘導している。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	自ら希望を述べる入居者がいないため、体調や気分に合わせて、皆が平均的に入浴できるようにしている。又、汚染等で必要時には臨機応変に対応できるよう支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、安心して気持ち よく休息したり眠れるよう支援 している。	入居者の生活リズムを把握すると 共に、状況に応じて自室、ソファ ー等で休息、臥床が出来るよう 支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの 支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、楽し みごと、気晴らしの支援をして いる。	一人ひとりに合った会話、作業 提供、趣味や特技を生かせる時 間・場の提供に努めている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。	金銭管理可能な方は財布を持っ ており、私物消耗品の買い出し 等で支払いを行えるよう、支援 している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一 人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援している。	夏場、天気の良い日は散歩や買 い物へ出掛けられる様、声掛け している。希望を訴えられない 方は、その日の気分や体調を考 慮し、こちらから戸外へ出掛け られるよう支援している。	○	自ら外出を求められる方がほと んどいない為、こちら側がその 環境を作り、喜んでもらえる よう努めている。
62	○普段行けない場所への外出 支援 一人ひとりが行ってみたい普 段は行けないところに、個別あ るいは他の利用者や家族ととも に出かけられる機会をつくり、 支援している。	外出行事などで、ご家族と入居 者全員が参加できるように努め ている。個別には散歩やご家族 との外出、外食など、入居者数 人でのドライブなど行っている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが 電話をしたり、手紙のやり取り ができるように支援している。	お子さんや親戚の方からプレゼ ントや荷物が届いた時には、本 人からお礼の電話をして頂き、 日常希望のある時は、電話を かけられるよう支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問 支援 家族、知人、友人等、本人の 馴染みの人たちが、いつでも 気軽に訪問でき、居心地よく 過ごせるよう工夫している。	常に解放的なホームを心掛け、 いつでも訪問を歓迎しており、 訪問時には本人とゆっくり過 ごす時間が持てるよう、配慮 している。毎日来られるご家 族もいる。		
(4)安心と安全を支える支援				グループホームさとほろ(4階 自己評価表)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	ユニット会議で勉強会を行い、全職員が徹底して、身体拘束のない介護に取り組み実施している。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間のみ防犯対策として玄関に鍵をかけているが、日中は常に開放している。居室に鍵をかけることを希望される方がいない為、各居室も常に開放している。		
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	自室経過、臥床時も定期的に見回り、安全に配慮している。又、気分の変化にも注意している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	一人ひとりの危険に対する認知度を把握した上で、個別の対応をしている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	実例をふまえ、臨機応変な対応がとれるよう話し合う場を設けている。消防訓練、救命講習を受講した。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	日々の申し送りやユニット会議に於いても常に確認し合っている。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	11/14に入居者と一緒に避難訓練を実施した。町内会へも協力をお願いしたが、現在、受け入れは難しい状態にある。	○	ホーム便りを定期的に発行し、ホームのことをもっと知ってもらえるように努めていきたい。

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	ケアプランの提示と共に起こり得るリスクをご家族に説明し、ご家族の意向もふまえて一人ひとりが抑圧感のない安全な生活ができるよう支援している。	○	機会がある度に現状の報告と予測されるリスク等については伝え、ご家族の協力を得ている。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	一人ひとりの体調を常に把握し、細かな申し送りの徹底と、必要時には、医師に連絡・相談し、指示・往診を受けている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	一人ひとりが理解した上で服薬支援にあたっている。	○	状況に応じ医師に相談し、指示を受けている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	一人ひとりの排便リズムを把握し、飲食物の工夫や可能な範囲で運動を取り入れ、便秘予防に努めている。	○	高齢や重度化により、自然排便が難しい方が増えている為、医師の指導のもと服薬調整を受け対応、必要時には訪問看護師によりGEの施行を行っている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	可能な限り、毎食後に口腔ケアを実施している。希望者は毎週、訪問衛生士による口腔チェック、口腔ケアを受けている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養のバランスを考えた献立を考えている。年齢、状態に応じたカロリーにしている。水分は表にして必要分を確保できるよう促している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	外出後はうがい、手洗いをやっている。10月末にはインフルエンザの予防接種を全員実施している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	包丁、まな板の消毒を頻繁に行う。 食べきれない量だけを作るよう心掛ける。 農産物の少ない食材、調味料を使用している。 食中毒早見表を貼り出している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	マンションなので建物の周囲の工夫はしていないが、玄関前や玄関内は季節に合わせた草花や飾り付け等で工夫している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関・居間・廊下等には入居者と一緒に製作したものを飾り、季節ごと、行事ごとにいろいろな工夫で飾り付けを行っている。	○	常にひとりひとりのとっておきの笑顔の写真を提示している。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食卓での席が一応決まっており、その時の状況でテレビルームのソファや洗面所前の椅子に誘導することで落ちついたり、不安なく過ごせるように工夫している。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家具や装飾品など自宅で使用していた物をできる限り持ち込んでもらい、本人の生活しやすい場所に配置している。家族の写真やカレンダー等でも心地良い空間を作り、ご家族の方も自由にコーディネートしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	随時喚起を行い、各居室や共有スペースに温・湿度計を置きこまめにチェック、調節ができるようにしている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	入居者一人ひとりに合わせた居室の環境作り、ベッドや椅子の高さの調節。廊下やトイレ・浴室内の手すり等で安全に自立した生活が送れるよう工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	入居者一人ひとりにをよく知る努力を心掛け、その人らしさを失うことのないよう、その人に合った対応の工夫をしている。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	夏場にはマンション前にベンチを置いて、日向ぼっこをしている。ベランダへは、花の水やりや洗濯物を干したり取り込んだりなどで活用している。		

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 重度化が著しい現入居者に於いて、自ら思いや願いを表現することは少ないが、日々のコミュニケーションの中でそれらを掴む努力をしている。 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある 重度化が著しい現状と限られたスタッフに於いて、業務に追われてしまいがちになるが、一人ひとりの職員がゆったりと過ごすことを常に意識している。 ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 その日の身体状況を常に考慮しながら、一人ひとりに合った過ごし方を職員間で確認し合い支援している。 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 そのときに最高の笑顔を見ることができていると思う。 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 本人からの希望は少ない現状にあるが、外出することで「楽しい」と思ってもらえるよう、できる限り努力をしている。 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 協力病院や提携病院、訪問ナース等の環境を整えている。 ②利用者の2/3くらい 小さな変化にも気付けるようスタッフ間での連絡を徹底している。 ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
94 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 ひとりひとりをよく知ることを心掛け、チームケアで取り組んでいる。 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての利用者 開放的なホームであることを心掛けると共に、面会時には入居者の状況を細かに伝え、共にその生活を支えている。 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない
96 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように 毎日面会に来られるご家族、1日おきに来られるご家族、仕事が休みのたびに來られるご家族など…ご家族の面会は多い。又、毎週ボランティアさんの来訪がある。 ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない	ボランティアさんに運営推進会議に参加してもらい、その知人の方がホームの見学に来られた。
98	職員は、生き生きと働いている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない	入居者の重度化と限られた職員数により、業務に追われ心身共に余裕がない時もあるが、職員間のコミュニケーションを十分に計ることを心掛け、それらの改善に努めている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	満足されていると思うが、入居者本意、その人らしさ、尊厳を心に留めながら常に向上心を持って、質の高いサービスを心掛けていけるよう努めたい。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない	「さとほろさんに入れてもらえてよかった」「いつも母が笑っているのが嬉しい」「父がとても生き生きしている」等々、ご家族の声がある。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

- ・日々の細かな記録と引き継ぎ。
- ・職員間での報告、連絡、相談の徹底。
- ・入居者一人ひとりに合わせた関わりを心掛けている。
- ・ご家族の関わりが多く、日々の生活はもちろん行事等への協力も多い。